

平成26年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金並びに
鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

平成26年3月14日
(一社)日本アルミニウム合金協会

平成25年度の日本経済は、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」による一体的な取組の政策効果から、家計や企業のマインドが改善し、消費等の内需を中心として景気回復の動きが広がった。また、企業収益の増加から設備投資が持ち直しつつあり、雇用・所得環境が改善していく中で、景気回復の動きが確かなものとなった。

このような経済環境の中で、当アルミニウム合金業界においては、①為替相場の円安傾向、②消費税率引上げに伴う駆け込み需要等の影響で主要需要先である自動車業界の完成車生産が年度下期より増加に転じたほか、四輪海外生産用部品輸出が引き続き大幅な伸びを示したことにより、主力の鋳物・ダイカスト向け需要が前年度比プラスとなったことから、平成25年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要は1,609,800トン(対前年度比104.5%)が見込まれる。

このような状況の中で、平成26年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを次のとおり策定した。

- (1) 鋳物・ダイカスト向け二次合金地金需要については、消費税率引上げに伴う国内自動車需要・国内完成車生産の冷え込みが予想されるものの、海外自動車生産の好調により四輪海外生産用部品輸出が引き続き堅調に推移することが期待されるため、プラス成長が見込まれる。
- (2) 圧延向け二次合金地金・二次地金需要については、飲料用アルミニウム缶需要が前年度比微増が予想されるため、微増が見込まれる。
- (3) 鉄鋼・その他向け二次合金地金・二次地金需要については、国内粗鋼生産が前年度を下回ることが予想されるため、減少が見込まれる。

以上の状況から平成26年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを、3年連続のプラス成長となる1,631,500トン(対前年度比101.3%)と策定した。

また、平成26年度鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通しは、254,800トン(対前年度比101.5%)が予想される。

平成 26 年 度

アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通し

平成 26 年 3 月 1 4 日

(一社)日本アルミニウム合金協会

(単位：トン)

項 目	平成 24 年度	平成 25 年度実績		平成 26 年度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鋳 物	304,420	327,900	107.7	330,600	100.8
ダイカスト	933,866	972,500	104.1	991,400	101.9
圧 延	186,518	189,400	101.5	191,300	101.0
鉄鋼・その他	115,500	120,000	103.9	118,200	98.5
計	1,540,304	1,609,800	104.5	1,631,500	101.3

注 1) 輸入地金を含む。

注 2) 平成 14 年 1 月より、経済産業省統計の統廃合があり、鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

平成 26 年 度

鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

(単位：トン)

項 目	平成 24 年度	平成 25 年度実績		平成 26 年度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鋳 物	171,258	181,700	106.1	183,600	101.0
ダイカスト	69,468	69,400	99.9	71,200	102.6
計	240,726	251,100	104.3	254,800	101.5

注 1) 輸入地金を含む。